

# 令和5年度 社会人選抜試験

## 小論文

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始の合図があった後、最初に問題用紙と解答用紙の確認を行ってください。問題用紙はA4版片面1枚（表紙、白紙は除く）で、解答用紙はA3版片面2枚です。枚数の不足、重複のないことを確認してください。また、印刷が不鮮明な場合は、手を挙げて試験監督員に知らせてください。
3. 受験番号の記入漏れ又は誤記があった場合は失格になります。
4. 解答は、解答用紙に、横書きで記入してください。
5. 下書きは、別紙の下書き用紙を使用してください。
6. 数字2文字以上を続けて記入する場合は、次のように記入してください。

例① 2022年 → 

20	22	年
----	----	---

例② 99.9% → 

99	.	9	%
----	---	---	---

7. 濁音（が、ぎ、ぐ・・・）、半濁音（ぱ、ぴ、ぷ・・・）は1文字として記入してください。
8. 体調不良やトイレに行きたい場合などは、黙って、手を上げてください。それ以外の途中退室は認めません。
9. 試験監督員の試験終了の合図と同時に解答するのをやめて、着席したまま試験監督員の指示を待ってください。
10. 解答用紙は、未記入のものも含めすべて回収します。なお、問題用紙及び下書き用紙は、持ち帰って構いません。

## 令和5年度 社会人選抜小論文試験問題

### 【問】

次の文章を読み、筆者は、がんになっても仕事を続けようとしたのはなぜか述べ、がん患者が就労継続する上での課題と解決策について、あなたの考えを1200字以内で述べなさい。

### 【課題文】

今、年間に約百万人ががんと診断されて告知されている。そして、その三割が現役世代。四十三歳で肺がんに出会った私もその一人である。その比率はこれからもっと大きくなると予測される。

(中略)

一九九六年十月、長い治療を終えて退院した。十か月ぶりに我が家に帰ってきた。一月に入院のために大きなカバンを持って出ていくときは、もう二度とここへ帰ってくることはないかもしれない、との思いで、玄関の扉を静かに閉めた。感無量である。住み慣れた自分の家が一番いい。工夫して作ってくれた我が家の食事が一番美味しい、自宅の風呂に浸かれば気持ちがいい、自分の布団に入れば睡眠剤は要らない。長い間離れてみて我が家の良さが初めてわかった。

ところが、その喜びも長くは続かなかった。手足の指先が少ししびれるな、と感じ始めて数日でそのしびれが全身に広がった。体のどこをたたいてもつねっても何も感じない。箸を持とうとしても滑り落ちてしまう。茶碗が持てない、服が脱げない着られない、靴が履けない、そして、歩けなくなってしまった。食事は口からお出迎え、トイレには這って転がっていく始末。夢を見ているようである。魔法にかけられたようでもあった。家の中で何もできない体になってしまった。抗がん剤治療の後遺症である。強い抗がん剤を長く大量に使用したため、末梢の感覚神経が機能しなくなってしまったのである。これほどに大きな後遺症は過去に前例がなく、有効な治療手段もなく、この体に慣れるしかない、ということがわかった。

「会社に行きたいんでしょ、仕事がしたいんでしょ。だったらリハビリよ」

この妻のひとつで、職場復帰に向けての自宅でのリハビリが始まった。

(中略)

家から駅まで普通に歩けば十分ほどの距離である。自分の力で精いっぱい歩いて途中で休む。通勤者が足早に追い越していく。やっと駅にたどり着く。三十分かかっていた。そして、駅構内のベンチに座って、改札口に消えていく通勤者の後ろ姿をずっと見つめる。必ず自分も定期券を持ってあの改札口を通過して会社に行く。それを毎日イメージするのである。

働き盛りの人間が仕事を離れて感じる事。それは、その世代の誰もがしている普通のこと。がしたいということ。朝の満員電車に乗って会社に行き仕事したい、自分の存在が社会のお役に立っていると実感できること、そして、夕方には帰ってくる家があって家族がいるということ。それが自分の手から離れてしまって初めて、かけがえのない宝物に見える。だから、仕事したい、切ないまでにそう感じるのである。

職場復帰に向けての次の環境整備は、会社の理解を得ることである。

### 【出典】

樋口強. がんでも働きたい. 株式会社 佼成出版社. 2019. p16-71.